

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100333		
法人名	株式会社リブレ		
事業所名	グループホームリブレ松川		
所在地	福島県福島市松川町美郷4丁目13番8		
自己評価作成日	令和2年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福島県介護支援専門員協会
所在地	福島県郡山市新屋敷一丁目166番 SビルB号
訪問調査日	令和2年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○施設内での事業所間交流が盛んです。グループホームのほか、看護小規模、デイサービス、サービス付高齢者向け住宅があり、自由な行き来があります。家族、地域の協力のもと夏祭り、敬老会、クリスマス会を合同開催しています。

○センター方式を用いたアセスメントにより、より深く利用者を理解し、その人らしさを大切にした支援ができるよう取り組んでいます。

○地域とのつながりを大切にし、ボランティア受入れ、「オレンジカフェ」開催、松川地域のSOSネットワーク訓練参加など、複合施設全体で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの他、看護小規模多機能、デイサービス、サービス付き高齢者住宅等々様々な事業の複合施設であり、事業所間の交流も盛んである。施設も設計段階から工夫された建物となっており、地域の福祉の中心的位置づけとしての機能を担っている。地域住民が頻繁に事業所に立ち寄り、利用者・職員との交流を図っている。応援隊の結成、清掃活動、配食サービス、ボランティアの育成等々、地域づくりに積極的であり、常に新しい試みを計画実践している。事業所で開催する「夏祭り」は、地域住民が中心となって実施されている。入居する利用者や職員のみならず地域の力を生み出す努力が感じられ、優れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度末に職員全員で話し合い、利用者に合わせた理念を作成している。いつでも目にするができるようユニット内に掲示し日々意識しながらケア実践できるようにしている。	毎年度末に職員参加で理念を検証する場があるなど、共有されている事が分かる。自分たちで考え、自分たちで実行していこうといった姿勢が感じられた。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設を訪れる各種ボランティアの方々との交流や散歩に出かけた際に挨拶を交わしたりしている。	開設当初から地域づくりに力を入れており、定期的に行われる自由参加の勉強会や行事への参加を継続していた。地域に向けてのボランティアの養成や応援団の結成等地域と共に歩んでいたことを確認した。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敷地内掲示板への認知症に関する記事の掲示、各種研修会の案内、オレンジカフェの開催の案内をお知らせしている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の状況報告を行い、委員の方からは忌憚ない意見をいただき、サービスの質向上に生かしている。	他の事業所と合同で行う推進会議で活発な議論が出されている事がわかった。その中で議論した内容について、出来ることから実践している事が確認できた。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に連絡をとり、相談・助言していただいたり情報収集をしている。	行政の担当者や民生委員などと常に連絡を取り合っている。さらに地域の福祉避難所としても市と提携する等日頃からの連携がされている。避難所として実際に機能できるように運用面での議論も活発に行っている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会の開催や研修会への参加により理解を深めている。施錠は夜間帯のみで、外へ出たい方に対しては引き止めず見守りしながら自由に行動できるよう支援している。	積極的に会議や研修を実施しており、言葉による拘束も行わないように注意を払っている。委員会や研修に欠席した場合でも、伝達研修を随時開催し、身体拘束についての認識を共有している。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会の開催や研修会への参加により理解を深めている。不適切ケアになっていないか、振り返り、声かけの仕方等気を配っている。		

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修を通して、職員間情報共有を図りながら対応できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者だけでなくご家族の意向も合わせて聞きながら、丁寧な説明を行うよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や連絡時は近況報告とともに、意見や要望を汲み取りながら聞き取りできるよう心がけ対応している。年1回家族会を開催し、意見要望等お聞きできる場を設けている。	家族会を年一回定期的に行っている。さらに日々家族が来所した際には担当した職員が意見や要望等記録に残し管理者を始め他の職員にも周知できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は意見の取りまとめや業務で気づいた点など日々の職員と関わりながらそのつど聞き取り反映されるよう努めている。必要に応じて管理者から代表者へ意見や要望などを伝えている。代表者も職員と面談している	職員は管理者や社長と面談できる機会が定期的にあり自由に発言できる。職員の提案により、「小さなお茶会」等新たな取り組みを実践した状況も確認できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、働きやすい環境づくりに努めている。人事考課の実施、職員面談を行い各職員の目標や意見、提案を聞く場を設け向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修の機会を設け、資格取得希望者には資格取得に向けた勉強会の開催など便宜を図っている。社内勉強会を開催し技術向上や知識の習得をする機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県グループホーム協議会に加入している。管理者会議や研修に参加することで他事業所との情報交換をすることができ自施設のサービス向上に活かしている。		

自己 外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話を通して、負担をかけないような接し方を心がけている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等からの意見、要望等をしっかり聞き取りできるよう気軽にいつでも相談していたり、ただけのような場の提供、雰囲気作りに努めている。現場職員とも情報共有し、ケアに反映できるよう努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何が必要か考えながら、本人を含め、家族へも負担がないような話し合いの機会を大切にしている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事の準備をしたり、分からないことを教えてもらったりしながら、今までの暮らしの延長線上にすることを心がけ、信頼関係を築くようにしている。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の気持ちを考慮しながら家族へ判断していただくことは相談したり、日常生活の中では本人の意向を尊重しながら双方の関係が途切れないよう仲介役となりこまめに連絡を取るようになっている。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方との交流が楽しみの一つとなったり、気軽に出かける場所が持てるよう、施設で過ごす中でも継続可能な方法を開く方とともに考え、実行できるよう努めている。	アセスメントがしっかりとされており、それを生かす取り組みがされている。複合施設の利点を活かし、旧知の仲でありながら中々会えないでいた利用者同士の交流再開や、家族の協力で外出していることが確認できた。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の人間関係に考慮し職員が仲介役となり、それぞれの利用者が負担のない関係性を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談や来所時など話を伺い、協力できるようその都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの性格や毎日の生活状況を確認しながら思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族と相談しながら利用者本位に対応している。定期的・随時カンファレンス実施している。	センター方式でのアセスメントや家族との連絡がしっかりされていることを確認した。本人の意向と家族の意向にずれがあった方については、本人の意向を尊重し、家族にも納得していただいたことを確認した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活やサービスを把握し、必要に応じて以前のサービス事業所から情報をもらうなどして職員全員が把握できるよう、記録や申し送りで周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時は24時間シートを用い、生活パターンを細かく記録、その後はケース記録、バイタルチェック表、申し送りやヒヤリハットを活用し、職員間で情報共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の希望を聞きながら、日々の生活の中での気づきや課題をカンファレンスや職員会議で話し合い、現状に即した介護計画を作成する努力をしている。	担当職員が中心となって、アセスメントをしながら毎月の職員会議で話し合いをしている。また日頃から気付いた点をメモに残し、介護計画に反映できるようにしている。会議は夜勤者・遅番も含め職員全員が参加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や夜間記録簿に実施したケア、気づき、ケアに基づいての変化等記入し職員同士情報共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内に看護小規模、デイサービスがあるので自由に遊びに行ったり、他ユニットに顔を出したりと自由に行き来できる環境である。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加や近隣へ散歩に出かけることで存在を知ってもらい、安全で豊かな生活が出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聞き、基本的には入所前の主治医に継続して受診できるよう働きかけている。家族対応が難しい場合は訪問診療医につないだりし適切に医療を受けられるよう支援している。	本人・家族が希望する医療機関に受診できるようにしている。事業所の協力病院の他、往診可能な医療機関が複数あり、通院が難しくなった場合には、訪問診療につなげていたことを確認した。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気づいたことは介護職だけで判断せず、訪問看護に報告・相談し、適時適切な医療が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は情報提供を行い、随時面会に行ったりしている。入院中も家族や医療相談員と連絡をとり情報交換や相談しながら早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化と看取りについての指針を説明し、同意を得ている。本人、家族との日頃のやりとりから聞き取りし、意向についてはC-1-2シートに記録するようにしている。	入所の契約時に、指針にそって全利用者に説明をしている。時間の経過と共に、家族の意向が変わる可能性があるため、都度意向を確認し、対応の変更も可能であることも伝えていたことを確認。往診可能な医療機関も複数あり、連携が常に取れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行い、急変時や事故発生時の対処法など実践を通して身につけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間火災想定した避難訓練を毎月実施している。施設が福祉避難所にもなっており、台風19号時には地域住民の避難受入れも行った。	夜間のみならず、昼間の火災も想定した避難訓練を実施している。年1回は、消防署を呼んでの通報訓練の他、緊急通報装置の使用方を随時確認している。	利用者が避難したかを確認するために「名札」を使用しているが、利用者の氏名が一致していない方がいた。定期的に確認をお願いしたい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際は必ず声かけをする、浴室・トイレなどでは必要最小限の手伝いを心がけ他人への配慮をするなど一人の大人の方としての尊厳ある当たり前の対応をしている。	居室に入る際の声掛け、トイレ介助の際の状況等、実際の場面を確認した。自尊心を損ねないよう、敬意を表しての実践が出来ていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望をゆっくり聞かだす、「～しませんか?」「どちらにしましょうか?」といった聞き方で自己決定しやすいよう配慮している。困難な方へは表情やしぐさを観察し、汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、一人ひとりの気分や天候等により利用者の要望等を取り入れ予定を決めたり、楽しく過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の嗜好に合わせた装い方ができるよう本人、家族から聞き取り、その人らしいおしゃれができるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	カウンター越しに調理している様子を眺めたり、一緒に台所に立ったりする等出来る家事を役割として続け、作る楽しみを持つ。調理が進む中で五感を刺激され自然と食欲がわくような支援を心がけている。	季節や行事に合わせて献立を考える等の工夫がされていた。節分には恵方巻を利用者と共に作ったとのことだった。食事の準備や後片付け等、利用者が役割をもっていたことが確認できた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分チェック表に摂取量を記入し摂取状況の確認、個々の状態に応じた支援として 与りみ剤使用、高カロリー補助食品の活用をしている。変化著しい方は訪問看護や主治医に相談し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけ、見守り、介助にて全員実施している。必要時訪問歯科医に相談しながら個々に合ったケアが出来るよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の行動やしぐさから排泄サインを見逃さず、タイミングよくトイレで排泄できるような支援を心がけている。個々に合わせたパットの使い分けができるようオムツについての勉強会も実施している。	一人ひとりの排泄状況を把握し、しぐさなどを逃さないように工夫している。トイレの利用時、さりげなく誘導するとともに、異性が同時に同じトイレを利用することがないよう配慮をしていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ自然排便ができるよう、サンファイバー使用、オリゴ糖入りカスピ海ヨーグルト(パナナ・りんご・キウイ)、水溶性食物繊維が多く取れる献立、水分補給、適度な運動(散歩)を行い、薬に頼らない排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ希望に添えるようにタイミングを考えながら声かけしている。 重度者に関しては清潔の保持に重点を置き、負担のかからない方法で対応している。	利用者の希望に合わせ、時間や曜日を定めることなく入浴の提供をしている。毎日声かけをする利用者もいる。重度の利用者に対しては、施設内の他事業所の設備を利用して対応するなど工夫していた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を確認し、日々の体調に合わせ休息の時間や就寝ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを作成し、いつでも内服薬の用法、用量、副作用等が確認できるようにしている。変更時は日誌にて申し送りし情報共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の状況により、できることはなるべく行っていたり、役割を持って生活できるよう支援している。出来るだけ声かけや関わる時間を多く持ち、笑顔で過ごせるような支援を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩はできる限り続けられるよう少人数ずつ行っている。 家族の協力を得ながら個々の希望に沿った外出支援をしている。	入所者の重度化・高齢化により、外出する範囲が狭くなり、頻度も減ってきているが、近くの公園への散歩は、無理のない範囲で続けている。本人の希望でデパートに出かけたい利用者については、家族の協力を得て外出をしている。	

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を管理している方は現在いない。 買い物の希望があればそのつど家族と相談しながらできるだけ希望に沿えるような支援を心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、施設の電話や公衆電話を使用し、いつでも電話をかけることができる。家族の協力を得ながら携帯電話で話している方もいるのでゆっくり話ができるような支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は時間により明るさや色合いを変え、刺激が少なく過ごせるよう配慮している。季節感を感じられる草花を飾る、臭いに気を配り清潔に過ごせるようまめに掃除をするなど利用者とともに日常的に行っている。	自然光がふんだんに入り、木の温もりも感じられる。調光機能付きの照明も活用している。季節に合わせた飾りつけもされている。まめに掃除をし、臭いに対しての工夫もされていることを確認した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内の好きな場所で過ごせるようソファ、廊下奥にベンチ、和室を用意している。ユニット内に限らず施設内の好きな場所で過ごせるよう全職員でさりげなく見守り出来る体制をとっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら自宅で使用していた家具や仏壇、写真などを持ち込み、本人が居心地良く安心して過ごせるような家具の配置をしている。	家族の写真、遺影や位牌、使い慣れた家具等なじみの物が居室に置かれており、居心地よく過ごせる環境が設定されていることを確認した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを便所と分かりやすい表現や大きく見やすい文字での表示で利用者が一人でも動きやすいような工夫をしている。毎月危険箇所チェックを行い、安全になおかつ不安なく自分で出来るような支援を心がけている。		